

熊商人権だより

2020年5月29日



コロナウイルスと差別（2）

緊急事態宣言は熊本県をはじめ、全国的に解除されましたが、学校も通常通りに再開されつつあります。新聞やテレビ等ではこのウイルスはすぐに収束することではなく、長期にわたってこの感染症と付き合いなければならぬようです。これからは学校生活を送りながら、差別や偏見をどうなくしていくかを考えていきましょう。この感染症がもたらす私たちに起こりがちな差別的な思いとして次のようなものがあります。

1 この感染症に対する・未知なるものへの不安、恐れ

このウイルスは未知のウイルスで、ワクチンや薬もまだ開発されていません。分からないことが多いため、私たちは強い不安、恐れを感じてしまうことがあります。

2 この感染症がもたらす嫌悪・偏見・差別

私たちは生き延びようとするために、ウイルス感染防止に関わる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、それによって人との信頼関係や社会とのつながりが壊されていきます。それでつかの間の安心感を得ようとするのです。

これから通常の学校生活が始まるにあたり、特に気をつけてほしいことをあげておきます。

・確かな情報を伝えること

正しい、確かな知識を持つことが重要です。差別的な言動に同調しないようにしましょう。

・感染を拡大しないように頑張っている人々のことに思いをはせる

医療従事者 小さな子どもがいる家庭 高齢者 治療を受けている人とその家族…この感染症拡大防止に関わるすべての人々をねぎらい、敬意を払いましょう。

・「もし自分が感染したら…」 「そのことが周りに知られたら…」 と考える

私たちが感染する可能性はゼロではありません。生徒の誰かが、生徒の家族が感染する可能性があり、生徒は感染していなくても家族が感染していたら、学校に出席ができません。そのことがSNSなどで広まったら…どんな気持ちになるのでしょうか。容易に想像ができると思います。自分が当事者だったらという想像力を働かせましょう。

日本赤十字社、日本赤十字社石川県支部のホームページに「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」動画とPDF資料が掲載されています。保健室近くの1階東側階段そばに資料が掲示してあります。動画はアニメーションで気軽に視聴できます。

